

## 詩篇141篇

## ダビデの賛歌

## 《夕べの祈り》

- 1 主よ。私はあなたを呼び求めます。私のところに急いでください。私があなたに呼ばわるとき、私の声を聞いてください。
- 2 私の祈りが、御前への香として、私が手を上げることが、夕べのささげ物として立ち上りますように。

## 《罪からの守りを求める祈り》

- 3 主よ。私の口に見張りを置き、私のくちびるの戸を守ってください。
- 4 私の心を悪いことに向けさせず、不法を行う者どもとともに、悪い行いに携わらないようにしてください。私が彼らのうまい物を食べないようにしてください。
- 5 正しい者が愛情をもって私を打ち、私を責めますように。それは頭にそそがれる油です。私の頭がそれを拒まないようにしてください。彼らが悪行を重ねても、なおも私は祈ります。

## 《難解箇所》

- 6 彼らのさばきづかさらが岩のかたわらに投げ落とされたとき、彼らは私のいかにも喜ばしいことばを聞くことでしょう。
- 7 人が地を掘り起こして砕くときのように、私たちの骨はよみの入口にまき散らされました。

## 《神に身を避ける者の祈り》

- 8 私の主、神よ。まことに、私の目はあなたに向いています。私はあなたに身を避けます。私を放り出さないでください。
- 9 どうか、彼らが私に仕掛けたわなから、不法を行う者の落とし穴から、私を守ってください。
- 10 私が通り過ぎるそのときに、悪者はおのれ自身の網に落ち込みますように。

本篇は「夕べの祈り」として知られるダビデ詩篇の一つです。それは、2節の「私の祈りが、御前への香として、私が手を上げることが、夕べのささげ物として立ち上りますように」という内容に基づきます。5:3には「主よ。朝明けに、私の声を聞いてください。朝明けに、私はあなたのために備えをし、見張りをいたします」とあり、「朝の祈り」と呼ばれているのと遠い対をなしています。

「不法を行う者ども」（4節、9節）、「彼らが私に仕掛けたわな」（9節）などの表現から分かるように、本篇の作者も敵対者の存在に悩まされていたようです。詩人を陥れようとする何らかの畏が仕掛けられ、危うくそれに引っかかるような経験をしたのでしょう。現代的に考えると、文脈を無視して言葉が切り取られSNSで拡散されるようなことがあります。大衆意識が煽動されて自分に対する悪意を持つ人が増えていくのは、いつの時代の人にとっても困ることです。

しかし、詩人は自分に対して悪を企む者に対し、自分が同じようなことをして罪を犯さないようにと願っています。「**主よ。私の口に見張りを置き、私のくちびるの戸を守ってください。私の心を悪いことに向けさせず、不法を行う者どもとともに、悪い行いに携わらないようにしてください**」（3～4節）という祈りは、詩人の成熟した信仰のあり方を物語っています。「悪をもって悪に報いず」という、まさに神の国の生き方を貫こうとしているのです。「**私が彼らのうまい物を食べないようにしてください**」（4節）という表現は「彼らの悪行と関わらない」ことの比喩だと思われませんが、実際に彼らが豪華な食卓を満喫していたことも想像に難くありません。

詩人は更に「**正しい者が愛情をもって私を打ち、私を責めますように。それは頭にそそがれる油です**」（5節）と、神が愛の鞭をもって自分を訓練されることを受け入れています。悪意を向けてくる者に対して善をもって返す、迫害する者のために祈るという、まさに主イエスが弟子たちに教え給うた生き方を実践しようとしているのでしょう。

6～7節は、原文が破損しているため意味が不明瞭です。様々な訳本で異なる翻訳が見られ、原典を復元しようとしている作業の痕跡が見られます。6節を直訳すると「**彼らのさばきづかさたちが岩のかたわらに投げ落とされるとき、彼らは私の言葉を聞くだろう。なぜなら、私の言葉は心地よいからだ**」となります。詩人に敵対する者の指導者のことが「**さばきづかさ**」と呼ばれており、彼らに突然降りかかる裁きが予告されています。詩人が悪に対して善をもって返すことを続けていると、その正しい生き方を見て詩人を支持する人々が興されるようになるということでしょう。

8～10節では、詩人が最終的に「**身を避ける**」ところは神であると告白されています。本篇は一貫して、悪に対して悪をもって報いない詩人の生き方が語られてきました。そのような生き方は、ある人から見ると「**何もやり返せない負け犬**」のように映るかもしれませんが、その忍耐の先には「**神による報復**」という結果があることを聖書読者は常に銘記している必要があります。パウロも同様のことを教えています。

**もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。**（ローマ12:20）

主イエスのことばにも耳を傾けましょう。

**わたしのために人々があなたがたをのしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。**（マタイ5:11-12）

私たちが聖霊によって聖化されていくとき、悪意ある者と歩調を合わせない生き方、この世にあって神の国という異なる次元に生きる道へと導かれていくでしょう。